



熱気球の係留について

熱気球の係留とは、通常のフリーフライトと異なり、気球をロープで固定し一定の範囲内での上下飛行をすることです。

従って、同じ場所で何度も上下の飛行が可能になり、たくさんの人に気球搭乗の体験をしていただくことができます。

○係留飛行場所

気球を係留する場合のスペースは、最低でも 50 × 50 m の広さが必要です。

(中央で気球をたちあげて、どの方向に倒れても気球の天頂部がいろいろな障害物にあたらないように) 気球は地面から天頂部まで 20 m あります。

そのエリアの中には電線や樹木・建物などが無いことが条件で、車両の乗り入れも可能なことです。

○係留飛行可能（不可能）

係留の場合は、気球をロープで固定させるため、通常のフライトよりも風の影響を受けますので、安全面から考えて、風速 2 ~ 3 m/s 以内の場合のみ行います。

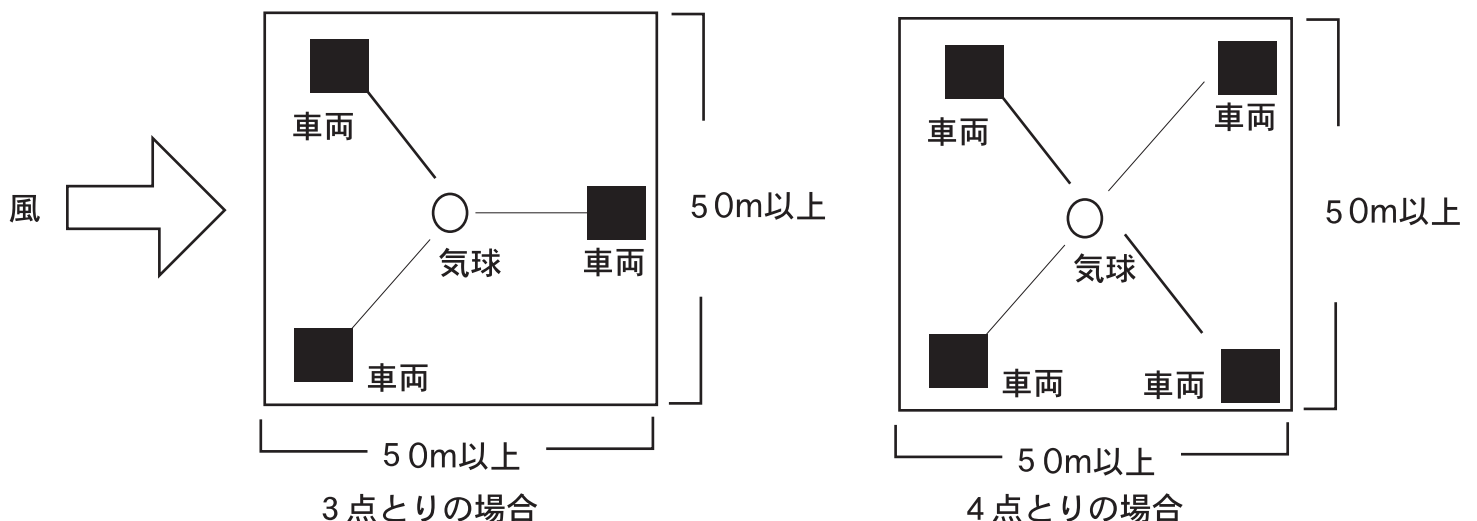
(判断はすべて気球のパイロットが行います) 雨の場合も係留はできません。

気球の係留は風が穏やかな早朝か夕方が一番好ましい時間帯です。

○係留飛行の高さ

係留に使用するロープの長さは全体 50 m です。

風の状態によりロープの長さを調整しますが、だいたい高さは 5 m ~ 30 m くらいまでです。





○気球のアンカー

気球をロープで繋ぐアンカーとして通常は車を使用します。

車を使用する理由は、係留を行っている途中で風向が変わった場合、それに合わせてロープの位置も移動させなければならない為です。

(常に、風上に2点とれるようにするためです)

樹木や固定したアンカーではその都度ロープをはずさなくてはなりません。

係留では車両は最低3台必要です。こちらで準備するのは気球搭載車両1台ですから残りの2台は主催者側で準備していただくことになります。

車両は、乗用車タイプ以上の出来るだけ重量のあるものが好ましいです。

(ロープをかけるフックなどが付いている車両がよいでしょう)

気球の場合はロープを車両と水平ではなく、上向きに45～60°の方向にひっぱりますので、フックなどが手前についている車が好ましいです。

トラック・バン・など

○搭乗人数

熱気球の搭乗人員は通常パイロットを含めて、大人3～4人です。

(実際は体重の合計のバランスになりますので、人数の確定はできません)

1時間で約大人30～40人、子供40～50人くらいが可能です。

○時間

係留基本契約時間は、1日のイベントの中で、3時間です。(燃料は6本です)

○その他

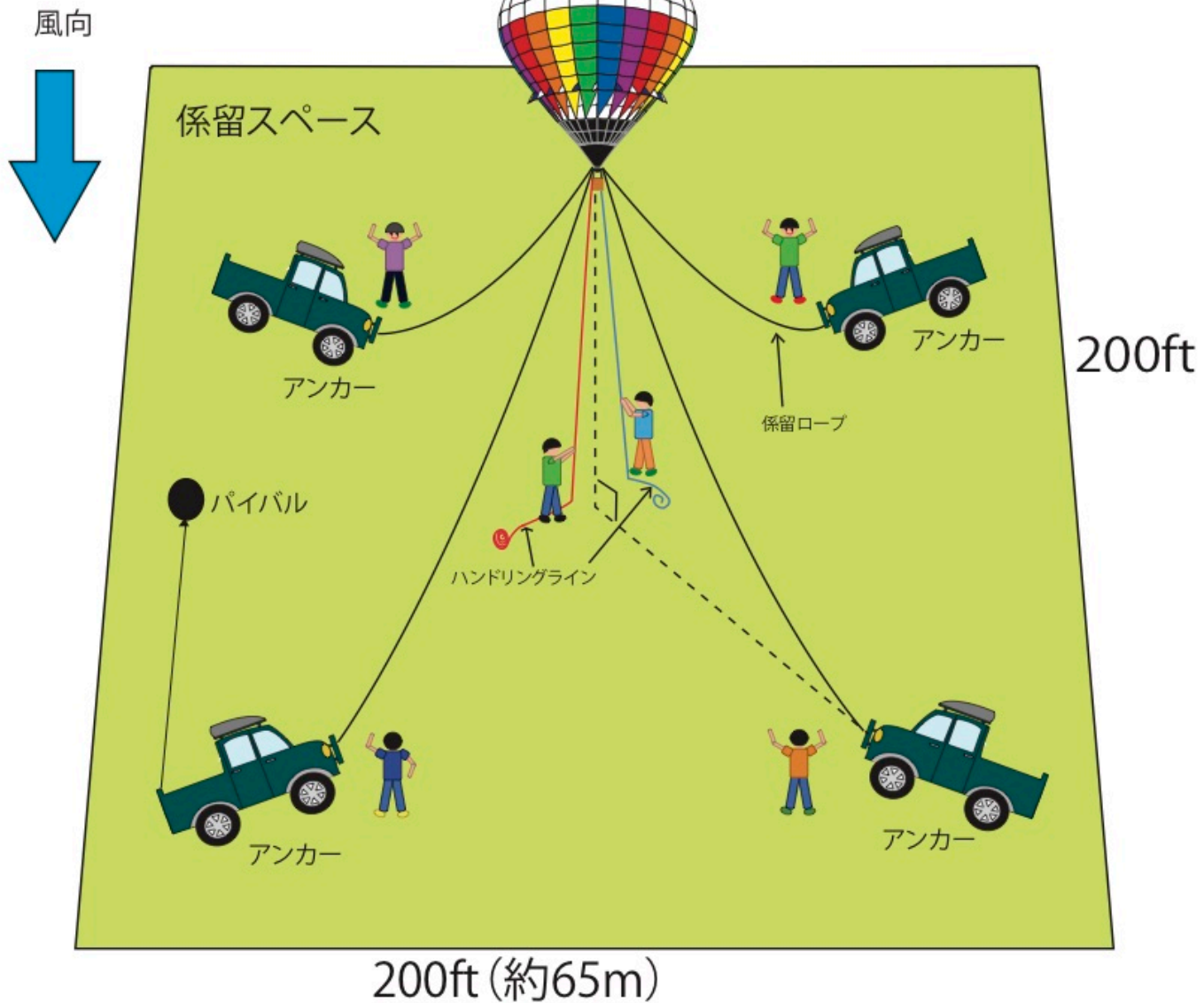
係留時は、会場内にロープがありますので、子供達が走り回ったりすると危険ですので、会場 整理の人間が必要です。主催者側での準備をお願いします。

こちらのスタッフは4～5人で気球作業にかかわりますので、会場整備や搭乗者の整理はできません。

係留に使用する機体には、搭乗者に対する賠償責任保険が付けられていますが、主催者様でも、イベント全体で加入できる傷害保険などにもご加入いただく事をおすすめ致します。

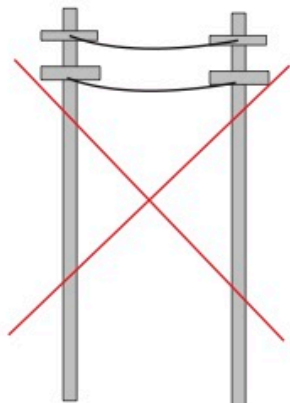
係留の開始、終了(中止)はすべてパイロットの判断で行います。

4点アンカーの場合

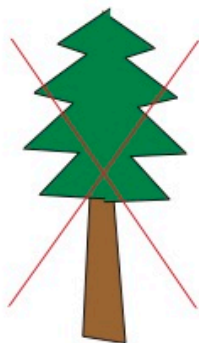


係留スペースにあってはならない物

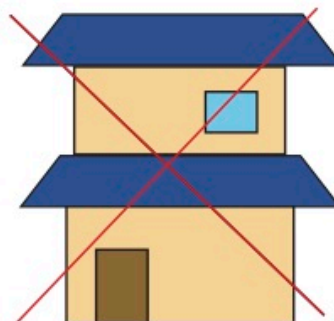
電柱・電線



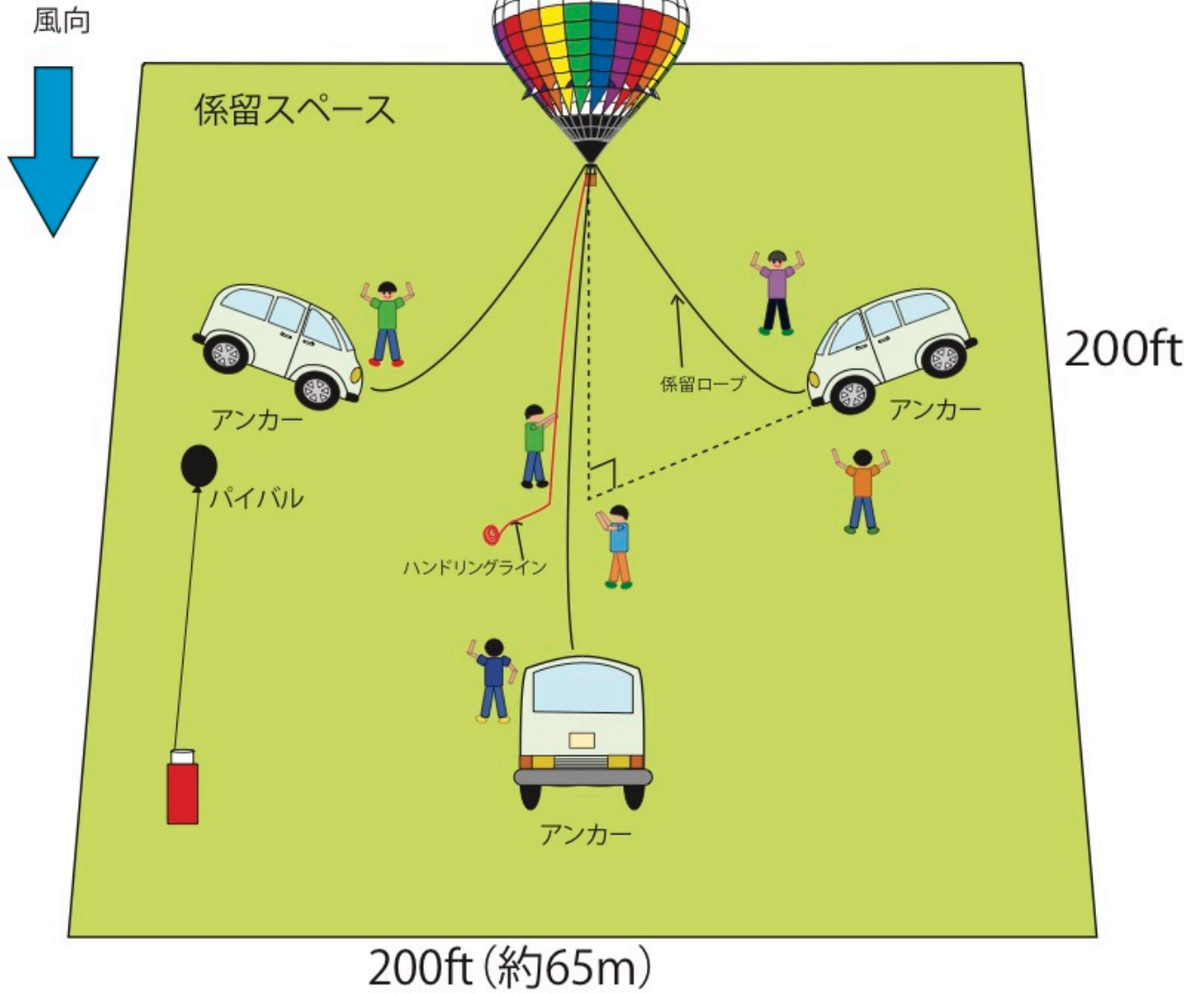
木など



建物

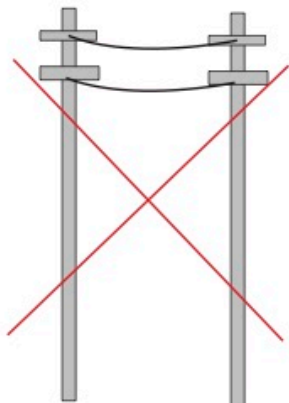


3点アンカーの場合

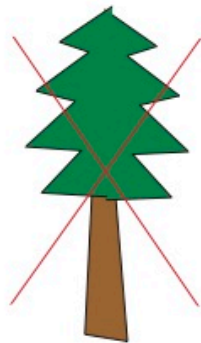


係留スペースにあってはならない物

電柱・電線



木など



建物

